

## 10月チャプレンだより

# 「49歳差の友情」

電車通学をはじめたばかりの小学一年生のきひろ君は、電車のはしの方で、苦しそうにおなかをおさえていました。乗り物酔いする体質だったようです。すると、「おなかのいたいのかい？」って、やさしく声をかけ、いっしょにホームを降りて、駅員さんのところまで連れて行ってくれたおじさんがいました。

一か月後、電車の中で、そのおじさん（高山さん）のところへきひろ君は近づくと、「このあいだは、ありがとうございます。」って笑顔であいさつをしました。きひろ君は、電車の中で、声をかけてくれたのは、高山さんだけだったので、すごく嬉しかったと言います。高山さんもきひろ君からお礼を言われたことがすごく嬉しくて、それから二人は、初めて出会った電車の一番後のところで、毎朝、会うようになりました。

二人が会えるのは、20分ほどです。高山さんは、毎日、きひろ君の話し相手になりました。そのころ子供たちの間では、「妖怪ウォッチ」がはやっていました。高山さんは、そのことを知りませんでした。きひろ君に、「妖怪の名前を言ってごらん」って言われて、言えなかった高山さんは、そのことが悲しくて、悔しくて、それから一所懸命ノートに妖怪の名前を書いて勉強したと言います。ある時には、ゲームをしました。子供相手のゲームだけど、高山さんはいつの間にか本気になっていました。こどもっぽいところもあったと言っています。電車の中の20分は、毎日、あっという間に過ぎていきました。

二人が出会って半年、夏休みが始まりました。高山さんは、妖怪ウォッチのイラストを手書きして、きひろ君に暑中見舞いのハガキを出しました。「げんきかにや？たのしいなつやみをすごしてください。シクシクさみしいよ。またあえる日をたのしみにしています」。きひろ君も「もんげえ。あついズラ」、妖怪ウォッチのイラストを手書きして返事をだしました。誕生日やクリスマスにもカードや手紙をやり取りしました。

4年間続いた二人の交流に別れの時がきました。高山さんが、定年退職を迎えることとなったからです。高山さんは、ちひろ君に手紙を書きました。「毎朝の電車の中で・・・とても楽しい時間でした。とても とても とても・・・ずっと友達でいてね。ず～と ず～と友達だよ。たくさん いっぱい ありがとう。」 ちひろ君は、手作りのマグカップを高山さんにプレゼントしました。そこには、笑顔のちひろ君のイラストと「最高の親友 大きな友達」の文字が描かれていました。

一人になったきひろ君は、高山さんと会っていた電車より、一本遅い電車にのるようになりました。いつのまにか、乗り物酔いしなくなっていました。

あれから2年、今でも二人の友情は、続いています。今年の夏は、二人で富士山に登ろう約束したとのこと。私もあと3年で定年退職を迎えます。高山さんと同じハートで、こどもたちといつまでも永遠に向かい合っていきたいと思っています。もんげえ、あついズラ。